

イタリア産レモンを日本で発売

[FreshPlaza](#) 2024年4月2日

ロッカ・インペリアーレ地区(イタリア・カンブリア州)のレモン生産者共同事業体は、4年前にアラブ首長国連邦、サウジアラビア及びオーストラリア向けで始めた国際化のプロセスを経て、今度は日本に製品を送っている。

40トン以上のリモーレレモンが2024年3月27日(水)にマルペンサ空港(イタリア・ミラノ)を出発し、3月28日に成田国際空港に到着した。

同事業体のピエトロ・ブオンジョルノ会長は、「我々のプロジェクトに賛同してくれた東京と横浜の最も重要なスーパーマーケットチェーンとレストランで、間もなくお目見えする」と話す。(以下「」は同会長の発言)

「20日前に行なったレモンのサンプル出荷は、果実の到着時に現地の取扱業者が実施した様々な官能検査と品質保持試験により、成功であることが証明された。日本の技術者や農学者も、棚持ちが良いこと、そして何よりも素晴らしい果汁と独特の香りに注目した。」

リモーレブランドは、イタリアの様々なスーパーマーケットだけでなく、ヨーロッパ、特にイギリス、フランス、スイス、オランダ、ドイツ、ベルギーのスーパーマーケットにもすでに登場している。

「この数か月間、日本への輸出を計画してきた。我々は、伝統的なロッカ・インペリアーレ・レモンの中でもある古い品種に焦点を当てている。種が無く、皮も食べられ、果汁の含有量は40%以上で、リモネンの含有量は75%で、強い香りが特徴である。すべての特性は産地に由来する。我々の最大の満足は、日本のバイヤーが初めて我々のレモンを味わった時に、その強烈で独特の香りを高く評価してくれたことである。2024年12月には、日本の代表団がロッカ・インペリアーレ地区を訪問し、レモンと産地の土壌・微気候的特徴を調べる。その目的は、取扱業者の信頼を深め、輸出量を増やすとともに、収穫の初めから次のシーズンの供給を計画できるようにすることである。」

台湾 パイナップルの栽培面積が4%減少

[Taiwan News\(台湾英文新聞\)](#) 2024年4月2日

【台北(台湾ニュース)】台湾農業部農糧署(AFA)(農業省農業食料庁に相当)は2日(火)、2024年のパイナップルの総栽培面積が7,200ヘクタールであったと公表した。

これは昨年比べて4%の減少となるが、AFAはパイナップルの品質が向上したとしている。今年これまでのパイナップルの輸出量は5,800トンで、年間輸出目標の2万トンを超えるペースで進んでいる。

AFAはまた消費者に向けて、品質管理対策が改善され、芯腐れの影響を受けた品質の低いパイナップルは引き抜かれたと伝えた。

AFAの蘇茂祥ユウマウシヤン次長は、パイナップルは収穫の最盛期を迎えるが、輸出販売が好調なため国内価格は安定していると述べた。4月2日(火)の台北農産物マーケティング社(台北農産運銷公司)のパイナップルの価格は、1kg当たり30台湾ドル(1米ドル)で、これは生産コストの約2倍であり、農家にとって妥当な利益につながっていると[udn.com](#)(聯合新聞網)は伝えている。

蘇氏は、国内のパイナップル農家にとって大きな課題は、中国が台湾からのパイナップルの輸入を3年連続で停止する決定を下したことだと述べた。このため、生産者は引き続き台湾の最も重要な市場である日本など、多様な外部市場を求めようになった。台湾は今後、ブルネイなどの新興市場の開拓を試みるだろう。

台湾産パイナップルが中国市場に戻るかどうかについて、蘇氏は、生産者は日本市場に焦点を当て、中国市場に対しては現実的な態度を維持するべきだと述べた。

執筆者: ショーン・スキャンラン(本紙記者)